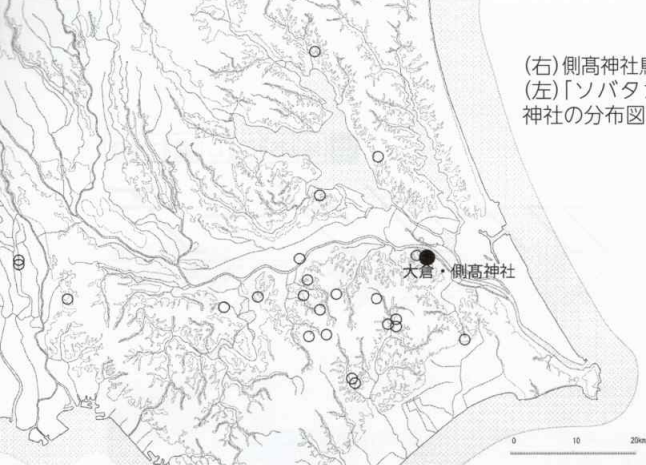


香取
遺産言わず語らずの
神をまつる側高神社

側高神社 大倉1

vol.193

(右)側高神社鳥居
(左)「ソバタカ」
神社の分布図

大倉地区に鎮座する側高神社は、古来より香取神宮の

第一摂社とされ、創建を同じとする由緒ある神社です。

香取神宮では「起請することあれば、必ずこの神に質す」(「香取私記」久保木清淵)とされるなど、関係の深い神社です。旧記などでは「脇鷹」「側鷹」「曾波鷹」神社とも記されており、表記は一定ではありません。祭神は

深秘となっており明らかにされておらず、千葉県神社庁には側高大神として届けられています。

側高神社で行われる例祭に、火たき神事などと呼ばれる祭礼があります。「香取志」(小林重規)によると、かつては旧暦の霜月(十一月)七日の夜に脇鷹祭としてさまざまな祭礼が行われました。香取神宮の大禰宜や大宮司などの神官が、神宮の馬場から騎乗して側高神社に赴き祭

礼を行いました。その帰路には丁子にて堀祭、津宮の忍男神では白状祭を行い、戻った後に団子祭(現・団基祭)などの祭礼も同日に行われたといえます。

周辺には「ソバタカ」と読める神社が数多く分布しており、現在確認できるだけでも20カ所以上に及び、その

表記も実にさまざまです。市内では丁子の側高神社や岩部の祖波鷹神社などがあり、市外でも栄町の素羽鷹神社、茨城県小美玉市の側鷹神社、埼玉県吉川市の蕎高神社などがあります。霞ヶ浦や印旛沼を含む、かつての内海である香取の海沿岸とその周辺の河川沿いの台地上を中心に分布しています。

言わず語らずの神とも称される祭神を祭る側高神社は、香取神宮と関係が深いながらも、謎多き神社です。歴史に思いをはせながら神社林に囲まれた境内を訪れてみてはいかがでしょうか。